

[第30回学術集会 理事会企画]

一般社団法人日本家族看護学会 第30回学術集会記念理事会企画

日本家族看護学会学術集会は、今年で学術集会30回大会となります。本学会は1994年、日本の家族看護学の確立を目的に発足し、第1回を故杉下知子初代理事長のもと「家族看護学の現状と展望」をテーマに、東京大学にて開催いたしました。その後、全国で学術集会を開催し、毎年多くの会員にご来場いただきました。この30年間の学術集会は、家族観の追究や家族看護学の構築、家族看護の臨床での応用・発展、家族看護研究、教育などをテーマにしたプログラムで開催してまいりました。また近年では、災害、紛争、COVID-19感染拡大など、社会情勢をとらえながらさまざまな問題に関連したシンポジウムや事例検討、委員会企画も同時に開催してまいりました。また、毎年多くの会員がよりよい

家族看護実践や家族看護の新たな知の構築を目指して日頃の成果を発表し合い、交流集会では熱いディスカッションを交わしてまいりました。

本学会は昨年、積年の課題であった法人化を果たし、「一般社団法人日本家族看護学会」として、新たなスタートラインに立ちました。そこでこれを機に、理事会では今までの学会の歩みを総括し、今後の家族看護学の未来を展望することを目的として、学術集会30周年記念企画を開催致しました。

会場では、30年間の歩みを振り返るとともに、歴代の理事長らとともに家族看護の将来構想について語り合う時間となりました。記念企画の詳細につきましては、30周年記念誌をご覧ください。